

産総研理事長賞受賞

齋藤文紀・後藤秀作・板場智史・兼子尚知



産総研では職員の士気高揚を図るため、平成15年度より理事長賞表彰を毎年度実施しています。平成27年度は顕著な貢献を行った研究業績3件と、運営・管理・支援業績3件に対して理事長賞が授与されました。地質調査総合センターからは「アジアにおける沿岸域地質環境の解明」とする研究業績に対して齋藤文紀首席研究員が、「研究記録管理システムの構築」と題する業績に対して後藤秀作主任研究員、板場智史主任研究員、および兼子尚知主任研究員が授賞しました。

地質情報研究部門の齋藤文紀首席研究員は、現在の堆積過程やポーリングに基づいてデルタの詳細な層相と発達過程を明らかにし、アジア沿岸域の地質（とくにアジアのデルタと沖積層）と人間活動・気候変動の影響などに関する研究を行って、世界のデルタ研究を大きく進展させたこと、また、人間活動のデルタへの影響に関する研究を推進することによりデルタの環境保全に貢献するとともに、共同研究や研究集会の開催を通じて人材育成にも大きく貢献したことが高く評価されました。この内容の一部を紹介した記事「ベトナムのメガデルタに魅せられて」が、GSJ地質ニュース2016年4月号に掲載されていますので、是非ご一読下さい。

また、地圏資源環境研究部門の後藤秀作主任研究員と活断層・火山研究部門の板場智史主任研究員、および地質情報研究部門の兼子尚知主任研究員の3名は、研究記録管理システムに関する業務フローの整備・構築における業績に対して、システム構築を行った共同グループメンバーとともに授賞しました。こちらは、研究不正に係る文科省ガイドラインの改定前から研究ノートの管理に係る検討を進め、研究記録の検認や一元管理等の独自の仕組みを取り込んだ新しい仕組みと新たな規程を整備したことが評価されました。

授賞式は4月1日に共用講堂で行われ、中鉢良治理事長から表彰状と記念品が授与されました。



授賞式後の祝賀会にて、牧野地質情報研究部門長と一緒に記念撮影。
(後藤主任研究員は出張中のため欠席)